

# 現職教育資料

はじめに……………1

1 道徳教育をよりよいものにするために……………1

^ 2 豊かな心をはぐくむための実践……………1

第 (1) 体験的な活動と道徳の時間との

441 関連を図るために……………1

号 (2) 地域との関連を図りながら

v 体験的な活動を展開するために……………2

(3) 体験的な活動を生かす道徳の時間の工夫……………3

おわりに……………4

## 豊かな心をはぐくむ教育の充実について

### はじめに

現在、我が国は未だかつてない急激な社会の変化の中にあり、私たちは物質的には豊かで便利な社会の中で暮らしています。

しかし、その反面、現代社会に生活する私たちの問題として、社会体験や自然体験が乏しいため、うまく人間関係を築けなかったり、自然の素晴らしさや人の思いやり、やさしさに感動できなかったりする者が増加するなど、いわゆる現代人の心の貧しさが指摘されています。

続発する少年の凶悪犯罪も、こういった社会の変化が背景にあるといってもよいでしょう。折しも、学校では、いじめや不登校に加え、校内暴力等が社会問題化しております。

このような状況の中で、栃木県教育委員会では、学校、家庭、地域社会、関係機関等と連携・協力し、とちぎの子ども豊かな心をはぐくむ「心の教育」を推進しています。特に、これからの学校教育が取り組まなくてはならないのは、道徳教育を中核とした、豊かな人間関係の醸成、自主的に行動する心、自立心、公共心・公德心、感受性など、豊かでたくましい心の育成を目指した教育活動の実践です。

本稿では、「豊かな心をはぐくむ教育の充実」をテーマとして、学校における道徳教育に焦点を絞り、道徳の時間と体験的な活動をどのように関連づけるか、また、体験的な活動と学校と家庭、地域社会の連携について、さらには、体験活動等で気づいたあるいは自覚した道徳的価値について、深化・補充・統合しながら豊かな心をはぐくんでいくための道徳の時間のあり方などについて、先進校等の実践例を中心に紹介します。各学校における道徳教育の取組の参考にしていただきたいと思います。

### 1 道徳教育をよりよいものにするために

実践等の紹介をする前に、豊かな心をはぐくむという視点から各学校における道徳教育の現状について見直してみましよう。

総体的には、各学校における道徳教育重視の姿勢がより顕著になりつつあります。例えば、研修の機会の確保や年間指導計画の整備、さらに時数の確保についても改善の傾向にあるようです。反面、道徳の時間の実施状況には、学級によってばらつきがあったり、授業は実施しても週1時間の道徳の時間だけの細切れの指導で、徳目を一方的に教え込むだけにとどまったりするなど、道徳の時間を核として全教育活動を通した取組の面では課題が見られます。こういった課題を受け、先にも述べましたが、体験的な活動の重視、学校と家庭、地域社会の連携のあり方、さらにこれらの体験を生かしながら豊かな心をはぐくんでいくための道徳の時間のあり方などを中心に実践的な研究を積み重ねていく必要があります。

以上のような現状を踏まえ、文部省は、道徳教育関係事業の一環として、「心の教育の一層の推進・充実を図る方策について」研究を推進するため、平成8年度から「豊かな心をはぐくむ教育推進事業」を立ち上げ、実践研究協力校を委嘱しています。栃木県においても、これまでに小学校4校、中学校3校の計7校が指定を受け、実践研究を進めています。

本稿では、これらの学校の研究実践を中心にしながら、先に述べた課題について各学校がどのように取り組んでいけばよいのか、具体的に説明します。

### 2 豊かな心をはぐくむための実践

#### (1) 体験的な活動と道徳の時間との関連を図るために (A 小学校の実践から)

豊かな心をはぐくみ、よりよい生き方を実践できるような子どもを育成するためには、道徳の時間と体験的な活動を以下のように関連づけ

ると効果的であろうと考えました。

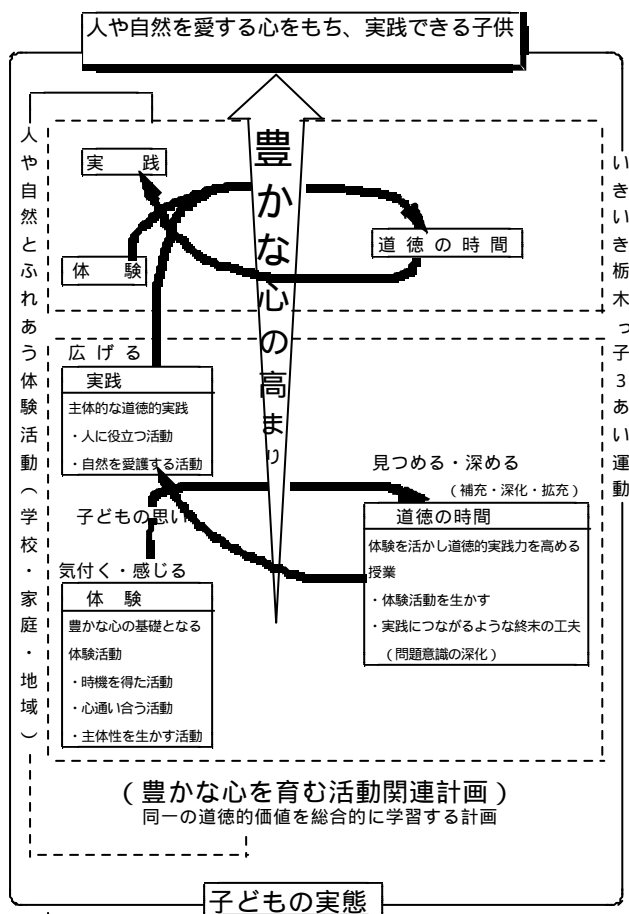
各教科や特別活動、ゆとりの時間などにおいて、人や自然とふれあう体験的な活動を充実させ、感じたり、気づいたりするなどの「子どもの思い」を豊かにする。

道徳の時間では体験的な活動での「子どもの思い」を生かした指導過程を組み、道徳の時間を体験活動の中で養われる道徳的価値を補充・深化・統合する時間として位置付ける。

さらに、この道徳の時間で高めた道徳的実践力を生かす体験的な活動の場を意図的・計画的に設定することで、子どもたちが道徳的価値を実感し、よりよい生き方を実践しようとしたり、やってみてよかったという喜びを得られるようにする。

このような一連の活動の流れを、A小学校では「豊かな心をはぐくむ構図」として実践を繰り返し、豊かな心をはぐくんできました。以下にその構図を紹介します。

豊かな心を育む構図



(2) 地域との連携を図りながら体験的な活動を展開していくために( B中学校の実践から ) B中学校では、地域や家庭などのかかわり

を明確にし、豊かな体験活動を展開していくことが生徒の内面に根ざした道徳性を育成していくことになると考え、その条件を明らかにした上で、地域や家庭との連携について実証的に研究しました。

ア 体験的な活動の工夫

体験的な活動が、生徒にとって受動的なものでなく、生徒が主体的に働きかけ、活動後に成就感や満足感の味わえる活動を「豊かな体験活動」とし、「豊かな体験活動」を成立させる条件を以下のように定義づけました。

自主的、主体的な活動

ふれあい、発見、感動のある活動

自分が働きかけ、それを通して自分が変わることのできる活動

互いのよさを見い出し、互いに支えることのできる活動

思いやりの心や優しさを耕すことのできる活動

困難を乗り越えた満足感・成就感を味わうことのできる活動

継続的な活動

イ 地域や家庭との連携

学校の創意工夫と地域等の特色を生かしながら、地域の人材の活用や交流を通して、道徳性を培う体験的な活動を活発に展開することで、育てたい道徳的価値の自覚を図ろうとしています。次ページに示す表は育てたい道徳的価値を核にして、体験的な活動と家庭や地域との連携を示したものです。

以上、地域や家庭との連携を通して豊かな体験活動を具現する一方策を説明しましたが、家庭や地域との連携を図るということは、学校、家庭、地域の間の一貫性が保たれることにより、道徳教育の充実が図られ、指導の効果が高まることでもあります。

その意味でも、地域や家庭との連携の視点を指導計画に加味し、実践を積み重ねていくことは重要であろうと考えます。

地域や家庭との連携を深めていく機会として 地域社会にふれあう機会(地域清掃、祭、PTA行事等)

家庭や地域と理解し合う機会(保護者会、学級・学年だより、日記等)

基本的な生活習慣や道徳的実践の場(係活動、委員会活動、家庭でのお手伝い等)

などが挙げられます。各学校の実態を踏まえつつ、創意工夫をしながら連携の場を模索し、実践していくことが大切であろうと考えます。

体験的な活動と家庭・地域との連携

活動名	学年	育てたい道徳的価値	家庭・地域との連携	他の教育活動
花壇づくり	1	3-1)2), 4-4)6)	・花壇づくりの指導助言	道・学活・理
水田耕作学習	2	1-3), 2-2) 3-1)2), 4-4)6)	・保護者による稲作指導 ・地域産業(農業)の理解	道・学活 理・社・美
草花栽培	3	1-3), 2-2) 3-1)2) 4-4)7)8)	・草花栽培の指導助言 ・栽培した草花の地域観光地への提供	道・学活・理
生徒会活動	地区内清掃奉仕	全 2-2), 4-1)2)4)7)	・地域観光地の清掃奉仕	道
	盲学校との交流	全 2-1)2) 3-3) 4-3)	・地区内盲学校生徒との各種行事における交流	道・学校祭 体育祭
学校行事	地域教育活動	1 1-1)2)3) 2-1)2)3)4)	・地域自然の認識 ・地域産業の理解	学活・理・社
	職場体験学習	2 1-1)3)4)5) 4-1)2)4)5)	・地域産業の理解 ・体験学習の場の提供	学活
	学校祭	全 1-2)3)5) 2-2)3)4)	・保護者の協力 ・盲学校生徒の招待	道・生徒会 クラブ・教科
	体育祭	全 1-2)3)5) 2-2)3)4)	・保護者の協力 ・高齢者の招待	道・学活・体 生徒会
活動	全 2-1)2) 4-2)4)7)	・地区内での奉仕活動 ・地区の方々との交流	道・学活	
学区ホタルマップづくり	選択 3-1)2) 4-7)	・地域自然の認識と地域環境保全意識の高揚	理・学校祭	

(3) 体験的な活動を生かす道徳の時間の工夫

これまで、地域や家庭との連携を密にした体験的な活動のあり方について具体例をもとに述べてきました。しかし、いかに体験が充実していても、道徳教育の「かなめ」である道徳の時間が道徳的価値を自覚させ、深化させるよう機能しなければ豊かな心をはぐくむことはできません。

それでは、豊かな心をはぐくんでいくために、どのような視点から道徳の時間の改善を図っていけばよいのでしょうか。

- 現在、道徳の時間が抱える主な問題点として、
- 徳目を一方的に教え込むような指導
- 創意・工夫のない資料の選択
- 発問のワンパターン化
- 指導過程の固定化
- 体験的な活動等を授業に生かす

などが、一般的な傾向として指摘されており、から についても、非常に大きな課題ではありますが、ここでは、本稿のテーマとの関連から、 の授業と体験的な活動について述べてみることにしましょう。

ア 総合単元的な道徳学習の工夫

子どもたちの道徳の学習を活性化させ、豊かな心を育てていくためには、子どもたちの道徳学習のサイクルを多様に考え、それが満たされるような指導を工夫していく必要があります。具体的には、道徳の時間のねらいにかかわりのある体験的な活動あるいは各教科等の指導の一部などを道徳の指導計画に位置付け、これらとの関連を図りながら道徳の時間の指導を効果的に行おうというものです。

この総合単元的な道徳学習の考え方は、2-(1)の実践例「豊かな心をはぐくむ構図」にも表れています。

イ 体験的な活動等を生かすための指導過程の工夫

中央教育審議会の答申「新しい時代を拓く心を育てるために - 次世代を育てる心を失う危機 - (平成10.6)」では「もっと体験的な道徳教育を進めよう」の項で、「道徳教育が子どもたちの心に響かないものになってしまっている例を見ると、教室内のいわゆる座学によって、単に徳目を一方的に教え込むような指導に頼っている場合がしばしばある。道徳教育によって道徳的価値が子どもたちの心に内面化するようにするためには、徳目に示される内容を子どもたちにきちんと伝えるときも、子どもが自ら考え、感じ取り、態度や行動に表すといった過程をとることが必要である。」と述べています。

ところで、体験的な活動は、

- ・道徳の時間で学んだことを生かす場
- ・体験的な活動を通して道徳性を育成する場

という2面性があるといわれます。道徳の時間の中のどのような場面に、どのような方法で、体験的な活動を想起させるのか、あるいは意識させるのか、授業のねらいや体験的な活動の種類など、その他様々な条件によって、違ってきます。

次ページの表は、体験を授業の各指導過程のどの部分に、どのような方法を通して位置付けることが効果的なのかについて、実証的に研究した一例です。

指導過程における体験的な活動の位置付け

	各過程における工夫点	具 体 的 な 支 援 等
気づく	導入段階における体験活動の生かし方の工夫	人の優しさに触れた思いや、自然の大切さを感じた体験活動の様子を資料として提示することで感動をさらに深めたり、それらの体験活動の中で自覚した道徳的価値を再認識させることで本時の主題に対する関心が高まるようにする。 ・写真(スライド)、ビデオ等の視聴覚教材の提示 ・作文、日記や掲示物等の提示 など
深める	共感的理解を図るための工夫	主題に迫るために適当な資料を選択し、問題場面等についての様々な意見について類型化する。そして、感じたことや考えたことについて話し合う活動をとおして、資料の登場人物に対する共感的理解を図る。そのために視覚、聴覚そして心に響くような臨場感のある資料提示の工夫をする。 ・場面絵やセンテンスカードの活用 ・録音テープによる資料の提示 ・一人一人にあてた手紙文の提示 など
見つめる	体験活動を生かし、道徳的価値を内面化させる工夫	本時の主題にかかわる体験活動や日常生活での子どもたちの意識を事前に調査しておき、その結果を提示することにより、自分自身を見つめ、今までの自分がどうであったか、どう考えていたのかなどを振り返りながら、これからの自分について考えられるようにする。 ・アンケート結果のOHPによる提示 ・アンケート結果にあった主な意見の提示
育む・生かす	実践につながる終末の工夫	子ども一人ひとりが、自分のもっている可能性を意識し、生き方をどう高めていくか考えられるように課題意識をもたせたい。そのために、先行する学習で得たものを収束させる場とするともに、今後どういう場面でのように行動していきたいか書くことにより本時で身に付けた道徳的実践力を事後活動や日常生活の中に生かしていけるようにする。また、授業後、子どもたちの書いた内容に対して、教師は激励したり賞賛したりする。 ・教師の説話や補助資料の朗読 ・関連する体験活動に精通する人の話 ・子どもの作文や日記、家族の手紙などの紹介 ・録音テープやビデオテープ等の視聴覚に訴える補助資料の活用

おわりに

以上、学校における道徳教育の充実について、豊かな心をはぐくむためには、体験的な活動を重視していくことが大切であるという視点から述べてまいりましたが、子どもたちの体験が充実した豊かなものになるためにも、子どもたち同士、教師と子どもそして学校と家庭及び地域社会相互の豊かな人間関係が形成されている必要があります。その意味でも、「いきいき栃木っ子3あい運動」を基盤としながら、豊かな人間関係の醸成及び更なる充実を図っていただきたいと考えます。

ところで、中教審の答申では、今後の道徳教育の課題として、「道徳の時間の授業時数を確保するなど指導体制を整えよう」と提言しております。このことについては、本稿の、「1 道徳教育をよりよいものにするために」の項においてすでに紹介しました。各学校における道徳の時間の時数確保については、前述しましたように、その実施状況には未だにばらつきがあり、十分な時数の確保できていない学校や学級もあるようです。体験的な活動の実践を通して道徳教育の活性化を図るためにも、その中核にある道徳の時間の時数確保は必須条件であると考えます。各学校における道徳教育の改善・充実には、すべての教育活動がかかわり、道徳の時間がその「かなめ」になることを、教師一人一人が意識して取り組むことが重要であることを述べ、本稿を締めくくります。

ティータイム

キノコに感謝！

秋になると、どこからともなくキノコのたよりがとどき、鍋料理が食べたくなる今の季節もやはりキノコは、欠くことのできない具のひとつです。

今年は、例年になく毒キノコを食べてつらい体験をされた方の記事が新聞に載っていたのが印象的でした。キノコの毒にあたった人は、お気の毒でしたが、さて、あのおいしいキノコはいったいどんな役割を果たしているのでしょうか。

御存知の通り、キノコは菌類に属しますが、菌類には葉緑素がないので、光合成ができないため他から栄養を取り入れる必要があります。その栄養は、動物や植物の死体を腐らせて摂りいれます。でも、くさるということは、菌類が生き物の死体を分解して、掃除をしている姿なんです。つまり、キノコは、地球の掃除屋といえるわけです。

ちょっと大げさですが、地球の生き物が十億年以上も生きてこられたのは、このキノコのおかげとも言えるのでは？

たかがキノコ、されどキノコ。  
キノコに感謝！